サポートやはた
ニュースレター
第8号

平成２４年１０月５日発行

〒807-0842
八幡西区永犬丸東町３－14－8
TEL：611-5900　FAX　611-6668
（内線650　651）
E-mail：tiiki@yahata-hp.com

Kさんとの出会いから、６年・・・
～ 家族との生活を願って ～

病前のKさんは、働き者で家族想い。奥さんとお子さん２人との幸福な生活を送っていましたが、ある日突然病に倒れ、家族の生活を支えることが出来なくなりました。一生懸命働いて購入したマンションも売却し、そのお金を生活費として奥さんに渡していたと聞きます。

その後しばらくして、Kさんは『八幡厚生病院』へ入院することになりました。しかし退院が近くなると、「以前のように働きたい」、「家族と再会したい」という思いが強くなりました。そこで『サポートやはた』のスタッフは、Kさんへの応援として、各関係者との「ケア会議」を開催し、今後の支援方法を検討しました。本人とも話し合った結果、Kさんは退院後毎日『活動センター』へ通うことになりました。

しかし生活を続けていくうちに、本人の中で「体調の不安定さ」や「交通の便の悪さ」が気になるようになり、一人で生活していく上での不安も出てくるようになりました。そこで、「交通の便の悪さ」について保護課ケースワーカーに相談すると、これまでのKさんの前向きな姿を見てくれていたようで、幾度かの抽選の末、市営住宅に転居できるようになりました。引越しの際にも、ケースワーカーの方に１日かけてお手伝いをしていただきました。

しかし転居１週間後、『活動センター』の方から「本人と連絡が取れない」と報告を受け、関係者で動いた結果、本人が自宅で倒れて意識を失っていることが判明しました。結局、救急病院へ入院することとなりましたが、入院中には別れた奥さんやお子さん達の面会があったとのことで、Kさんが涙を流してそのことを報告してくれました。

現在Kさんは、すっかり体調も回復し、再び元気に『活動センター』へ通っています。私達もこれまでのKさんとの関わりを通して、『活動センター』の皆さんや、保護課ケースワーカーの方の“温かい支援”に大変感動しました。今後Kさんが１日も早く、家族と一緒に生活が出来るよう、これからも見守っていきたいと思います。

「サポートやはた」
センター長　　柴伐　憲彦

作業所紹介

日頃からの連携に感謝です！
～「マイマイ工房　黒崎」の紹介をしていただきました～

家族や地域、関係団体とのチーム支援を大切にしながら
『明日へとつながる支援』を目指して！！

「マイマイ工房 黒崎」
所長　　花田　智之

まず初めに、「マイマイ工房 黒崎（就労継続支援Ｂ型）」とはどのような所かご紹介致します。「マイマイ工房 黒崎」は、障害のある方々が日々の就労訓練を通し、人との関わり方の練習や、安定した生活リズムの獲得、悩み事への対応・対処方法などを学びながら、個々の目標の達成を目指して活動を行っているところです。『マイマイ』という名の通り、カタツムリのようにゆっくりと、個々の利用者さんのペースに合わせて活動に取り組んでいます。また、就労訓練だけではなく、季節ごとのレクリエーション活動（花見やドライブ、映画鑑賞、焼肉大会、クリスマス会など）も行っています。

施設運営にあたり最も重視していることは、利用者さんを取り巻く環境（家族・地域・病院・行政機関・関係機関など）の細やかな把握と、密な連携を大切にすること。また、利用者さんの個性（障害や疾患特性）をしっかりと理解すること。そして、利用者さん一人ひとりの目標や希望に添ったサービスを提供することです。

「マイマイ工房 黒崎」は、日中の通所施設ではありますが、必要に応じて、ご家族へ施設内での活動状況をお知らせし連携を図ると共に、家庭での様子も伺いながら、施設外での状態把握にも努めています。そうすることで、利用者さんの変化にもいち早く気付き、体調が悪くなる前に対応することができます。また、体調が思わしくない場合には、病院への付添いや、病院との連絡・調整なども行っています。安定した生活を長期に渡って送ることが、利用者さんの自信につながり、次のステップへの足がかりになるのではないかと考えます。

一日の活動が終わった後、「今日はマイマイ工房へ来て楽しかった」「また明日も来たい」と思っていただけるよう、『楽しい・明るい・笑顔の絶えない』雰囲気作りを行いながら、『明日へとつながる支援』のために、こころの通った福祉サービスの提供に全力を注いでいます。

【作業内容】
・スポンジ入れ　・後祭壇作り
・ダンボール作り　・白ボール作り
・清浄綿　・TOTO取扱説明書袋入れ　等々

【作業・訓練時間等(1日のスケジュール)】

9:00～	開　所
10:00～10:10	ミーティング
10:10～12:00	作　業
12:00～13:00	給食・昼休み
13:00～15:50	作　業
15:50～16:00	ミーティング
～17:30	閉　所

※作業時間は50分毎に、10分の休み時間があります。

（お問い合わせ先）
〒806－0022 北九州市八幡西区藤田一丁目1番38号
マリンコート1F
電話:(093)622－8191 FAX:(093)622－8190

当事者の声

“うずら”さん、３回目の投稿で 訪問看護の紹介をしてくれました

『訪問看護と私』　ｂｙ うずら

うずらが八幡厚生病院の訪問看護サービスを受けて、もう４年になります。

訪問看護（訪問）とは、退院後、週に１度（うずらさんの場合）、看護師さんが自宅に来て、様々な相談に乗ってくれるサービスです。八幡厚生病院を退院する時にサービスを申し込んだのですが、その時の動機は、「退院しても外出する機会がほとんどなく、誰かと会話出来るチャンスが欲しかったから」でした。

正直最初の頃は、我が家にやって来る「訪問看護ステーション」の看護師さん達を警戒していました（笑）。心の傷が、まだ深く残っていたのでしょう。でも何度も訪問を受けるうちに、なじみの看護師さん達も出来、だんだん打ち解けることが出来るようになってきました。

訪問時の会話の内容は、今自分が抱えている悩みや不安、病気の事、近況など。ステーションの皆さんは、時に真面目に、時にユーモアを交えてアドバイスをくれます。そして、あっと言う間に４年。今では何でも話せるようになりました。話す事で、今自分がどんな状況なのかを認識することも出来るし、ステーションの皆さんは、うずらが気付いていない小さな変化も見逃しません。そして様々なアドバイスをくれます。母の介護という仕事が増え、通院と買物以外に外出することのないうずら。ステーションの皆さんの訪問は、うずらがうずららしい生活をするために欠かせないものとなりました。

メンタルを患っている人達は、（うずらもですが）ともすれば閉鎖的な生活を送りがちです。でも誰かと会話をする事によって、新しい自分が見えてくる事もあります。会話の内容は何でも良いんです。悩みや病気に関する事、日常の出来事や感じた事…。会話をする事によってコミュニケーションを取る事が出来、閉鎖的な日常から少しでも抜け出す事ができると、うずらは思います。

ステーションの皆さんは、メンタルのプロです。「餅は餅屋」ではないけれど、うずらは今、安心してステーションの皆さんに何でも話が出来ます。そして週に１度の訪問をとても楽しみにしています。家族にも言えない悩みや苦しみを持って生活している人がいれば、訪問看護のサービスを受けてみてはどうでしょうか？秘密は必ず守ってくれます。そして、その日の訪問が終わる頃には、大きな安心を受け取ることが出来ます。

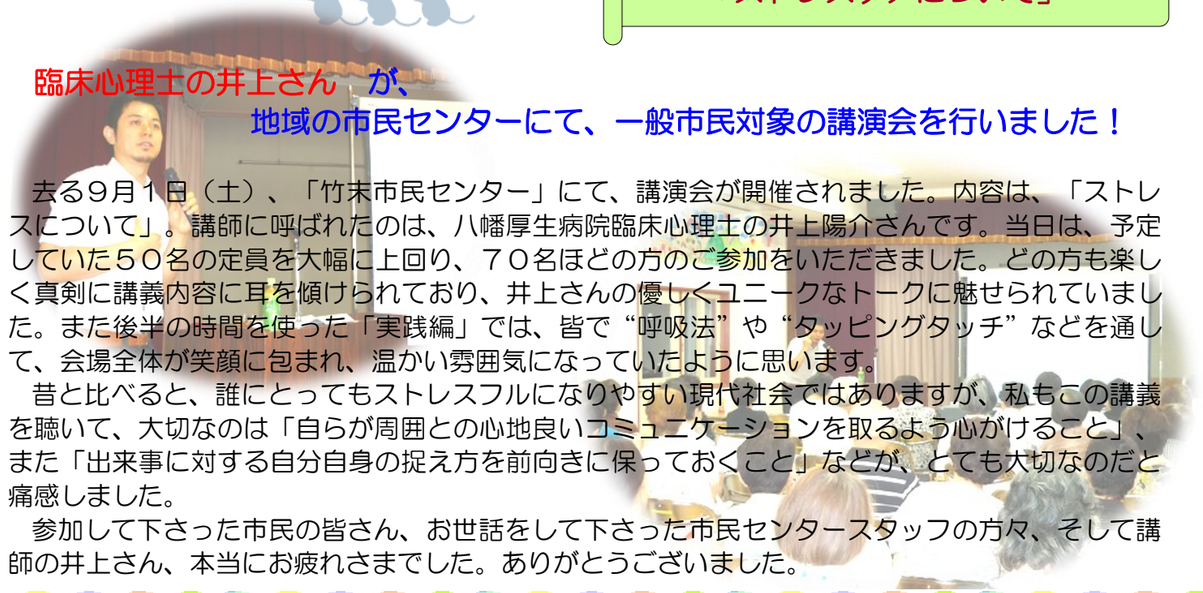
今うずらにとって、ステーションの皆さんは、家族の次に何でも話せる大切な存在となりました。そして４年前と比べて、よりうずららしい生活を手に入れることが出来、とても感謝しています。誰かと会話をする事で、少しでも社会と関われることが出来るのだとうずらは思います。「次は誰が来てくれるだろう？」「どんな話をしようか？」うずらはワクワクして待っています。

訪問看護サービスを知らない人は、ぜひ１度、かかりつけの病院の先生に尋ねてみてはいかがでしょうか？そして、少し勇気を出してサービスを受けてみませんか？「自分らしい生活を送りたい！」と望む気持ちがもし少しでもあるならば、訪問看護サービスを１度利用してみることが、きっとプラスになると思いますよ。

～うずらさんから大変励みになる投稿をいただきました。これからも「うずらさんらしい生活」が送れるようお手伝いができたら・・と訪問看護スタッフ一同思っています～

地域活動

八幡西区竹末市民センター講演会 「ストレスケアについて」



臨床心理士の井上さん　が、 地域の市民センターにて、一般市民対象の講演会を行いました！

去る９月１日（土）、「竹末市民センター」にて、講演会が開催されました。内容は、「ストレスについて」。講師に呼ばれたのは、八幡厚生病院臨床心理士の井上陽介さんです。当日は、予定していた５０名の定員を大幅に上回り、７０名ほどの方のご参加をいただきました。どの方も楽しく真剣に講義内容に耳を傾けられており、井上さんの優しくユニークなトークに魅せられていました。また後半の時間を使った「実践編」では、皆で“呼吸法”や“タッピングタッチ”などを通して、会場全体が笑顔に包まれ、温かい雰囲気になっていたように思います。

昔と比べると、誰にとってもストレスフルになりやすい現代社会ではありますが、私もこの講義を聴いて、大切なのは「自らが周囲との心地良いコミュニケーションを取るよう心がけること」、また「出来事に対する自分自身の捉え方を前向きに保っておくこと」などが、とても大切なのだと痛感しました。

参加して下さった市民の皆さん、お世話をして下さった市民センタースタッフの方々、そして講師の井上さん、本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。

「金山川クリーン清掃」に参加

６月３日、夜中から降り続いた雨も、明け方には上がり、曇り空の朝となりました。毎年行われているこの行事に、今年も「サポートやはた」より１０名の有志者と、子供２名が参加することとなりました。

集合場所である「中尾市民センター」に行ってみると、その人数の多さにびっくり！！後で伺うと、1,212名だったとのこと。参加施設によっては２０～３０名の参加者が、揃いの“ユニフォーム”に身を固め、円陣を組むなど、意気込みを感じさせられる場面もありました。

まだまだ若い！門司課長と山田PSW、大奮闘でした!(^^)!

さて、世話役の方達の挨拶の後、いよいよ清掃活動開始。老人会の方達と共にこちらが与えられた清掃区域は、「筑豊電鉄」が走る陸橋の下で、金山川横の草刈りと、川の中のゴミ拾いでした。若手２人に腰までの長靴を履いて川へ入ってもらいましたが、靴に水が入り込むなどのハプニングもありました。約１時間、多くの人達に声をかけられ、また声をかけ合いながら、草を刈り、集めた草やゴミを一緒に運び、良い汗を流すことが出来ました。終了後に清掃した場所を振り返ると・・・そのスッキリしたこと、きれいになったことに、非常に満足感を覚えました。同じ地域に住む方達と共に、地域活動へ参加できたこと、また貢献できたことに、喜びを感じながら帰路につくことができました。

清掃の後は冷たいスイカで慰労会、おいしかったですね～

「金山川クリーン清掃」は毎年の行事です。自分達の住む環境が少しでも良くなることを願いながら、来年もぜひ、皆で参加したいと思っています。

八幡厚生病院「地域交流委員会」
委員長　木村　正美

◆◆編集後記◆◆

今回も楽しくニュースレターを編集させていただくことができました。地域の方との交流があったり、当事者の方から貴重なお声をいただいたりすることで、私共一同、大変励みになる機会を得ています。このニュースレターは、当センターと地域のさまざまな方とをつなぐ架け橋になればいいなと思っています。掲載希望などがございましたら、いつでもご連絡下されば幸いです！

次号は１月の予定です。